科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 26 年 8 月 4 日現在

機関番号: 32669 研究種目:基盤研究(C) 研究期間:2011~2013

課題番号: 23580315

研究課題名(和文)食の安全とアニマルウェルフェアに配慮した畜産物フードチェーンの開発に関する研究

研究課題名(英文) Improving animal welfare in the food quality chain in the EU and Japan

研究代表者

植木 美希(UEKI, MIKI)

日本獣医生命科学大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号:60202230

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文):アニマルウェルフェアは『動物福祉」や「家畜福祉」と日本語訳されることが多い。欧州連合EUでは2012年1月からは卵をとるための養鶏業においては従来型のケージは禁止された。また、豚肉生産の養豚業においても狭い鉄格子の中で飼育するクレート飼育は禁止された。また世界の家畜の保健衛生基準を決定するOIEや国連機関であるFAOにおいても家畜福祉を重要視し始めている.そこでこのような政策と実際の畜産物市場がどのような様子を呈しているのかを明らかにした。また日本の消費者がアニマルウェルフェアについてどの程度認識しているかについての意識調査等も東京都食育フェアやインターネットで実施した。

研究成果の概要(英文): Animal welfare is of considerable importance to European consumers and also other consumers. EU adopted new rules on farm animal welfare. Battery cages were to be phased out in the EU f rom 2012. Sow stalls are already banned in the EU.Food quality is not only determined by the overall natu re and safty of the end product but also by the perceived welfare status of the animals from which the fo od produced. So I researched the new food quality chain on European countries. The Freedom food was launch ed in 1994 to improve the food quality, now we can find Freedom Food labelled meat, fish and poultry prod ucts in the majority of the UK's supermarkets the UK. In France the organic food is used in Lunch meal for school. The food quality is also very important for French consumers. In Japan consumers do not know about the word "animal welfare". We need to develop the animal welfare in the food quality chain as soon as possible.

研究分野: 農学

科研費の分科・細目: 農業経済学

キーワード: アニマルウェルフェア 有機農業 食品安全 OIE フランス学校給食 消費者のアニマルウェルフェア

に関する意識意識 アメリカのアニマルウェルフェア マンガリッツァ

1.研究開始当初の背景

(1) EU 消費者・市民から発信された有機 畜産や有機畜産の大きな柱の1つであるア ニマルウェルフェア(動物福祉)に配慮し た畜産を進めることの重要性が、世界の新 しい潮流となりつつある。日本においても、 有機畜産の実現はかなり困難であるものの、 取り組みを始めた生産者も数名存在し、これまで顧みられなかったアニマルウェルフェア(以下 WQ:品質 Welfare Quality と略 す場合がある)に配慮した畜産物の生産、 流通、消費もまだ萌芽的段階ではあるもの の確実に出現しつつある。

(2)しかし、激変する世界の状況の中で、 日本においては、これまでアニマルウェル フェアに対する関心はあまり強くなかった。 日本においてもアニマルウェルフェアに配 慮した畜産物フードチェーンの開発が急務 である。

2.研究の目的

(1)本研究では3か年間の研究期間において、消費者に期待される有機やアニマルウェルフェア畜産のような安全で家畜の健康と福祉に配慮し、環境にも優しい畜産物アグリフードシステム開発について、以下のような課題を設定し、EUの先進国と日本の現状を調査分析し比較することを目的とする。

(2)第1にEU消費者の食品に対する意識 と新しい畜産物ニーズの把握、第2にEU 畜産物市場の最新動向についての現状調 査と分析、第3に消費者に期待される畜産物とそのアグリフードシステムに関する研究開発の実態、第4に有機畜産物とアニマルウェルフェア基準の有効性とその評価について、第5に各種畜産物の流通販売チャネルにおけるトレーサビリティーの確保と実効性について、第6に各国政府の最新の畜産政策と有機畜産・アニマルウェルフェア政策の関連について、第7に国際レベルでの畜産基準の整合性と貿易ルールとの関連について

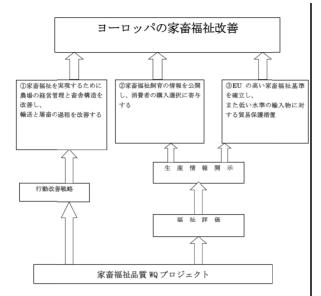
3.研究の方法

(1)海外におけるアニマルウェルフェア畜 産物チェーンの開発状況について現地調査 を実施した。

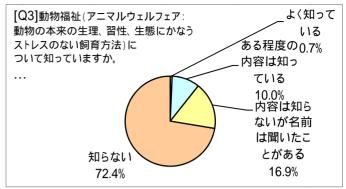
(2)日本のアニマルウェルフェアの開発 状況について調査すると同時に消費者のア ニマルウェルフェアの認知度についての意 識調査を実施した。

4.研究成果

(1)EU特にイギリスを中心としてアニマルウェルフェアチェーンの具体的な食品市場での進展状況について調査分析できた。フリーダムフードだけではなく、レッドトラクターマークなどもアニマルウェルフェアに配慮していることを唱っている。WQプロジェクトも実行段階に入ったことが明らかとなった。



- (2)フランスでも学校給食に有機農産物の 導入に積極的に取り組んでいることが明ら かとなった。
- (3)ハンガリーでは在来種のマンガリッツ ア豚が、飼育方法に配慮してマーケティン グに力を入れたところ、絶滅の危機を脱し、 順調に飼育頭数を増加させていた。
- (4)アメリカで急速に進展するアニマルウェルフェアのチェーン開発について調査分析できた。特に採卵鶏に関しては欧州同様にケージ養鶏への反発が強まり、ケージフリー卵が多く販売されるようになってきた。
- (5)日本のアニマルウェルフェアの開発状況について調査できた。また消費者の意識についても明らかにした。日本ではまだまだアニマルウェルフェアに対して、その言葉そのものもあまり認識されていないことが明らかとなった。



5. 主な発表論文(5本)

〔雑誌論文〕

永松美希「欧米におけるアニマルウェルフェア - 動物福祉畜産の動向-」農中総研 『調査と情報』第30号、2012、12-13、

永松(植木)美希「欧米におけるアニマルウェルフェアの動向」『デイリーマン』VOL62 No.11、2012、30-31

永松美希「フードシステムにおけるアニマルウェルフェアの課題」フードシステム学会ニューズレター第43号、2012、1

永松美希「日本畜産のあるべき方向とアニマルウェルフェア」日本フードシステム学会ニューズレター46号、2012年

永松美希「家畜福祉品質を持つ畜産物市場の動向-イギリスを中心に一」家畜福祉についての獣医師研修セミナー資料、2013 [図書](2本)

植木美希「動物福祉品質を持つ畜産物市場の動向-イギリスの現状を中心に」『動物とのより良い関係を求めて:動物福祉学入門』武田庄平編著,農林統計出版 2014 年 10月(出版確定)

永松美希「アニマルウェルフェア畜産の 発展」松木洋一監修『人間動物関係論』pp67 ~80、養賢堂、 2013年 永松美希「コラム有機畜産」松木洋一監修『人間動物関係論』pp81~82、養賢堂、2013年

〔その他〕

ホームページ等

http://www.jfa.org

〔テーマに関する社会貢献:農業と動物福祉研究会として、社会への動物福祉畜産の普及活動〕

以下のセミナーの企画と開催を主催者として行った。

2013年3月 第1回 獣医師対象家畜福祉セミナー開催

2013 年 10 月 第 2 回 獣医師対象家畜福祉セミナー開催

2013年3月 第3回 獣医師対象家畜福祉 セミナー(豚に関する病気の発生蔓延のため 2014年11月に延期

2014 年 7 月 5 日「家畜福祉食品流通消費システムの開発」(於日本獣医生命科学大学開催確定)

2013 年 11 月「養鶏のアニマルウェルフェアに関するセミナー」東北大学家畜福祉寄付講座セミナーにおける司会進行役

6.研究組織

(1)研究代表者

植木 美希 (UEKI, MIKI)

日本獣医生命科学大学・応用生命科学

教授

研究者番号 60202230